

脱炭素と日本株を考える

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 脱炭素技術に強みを持つ日本

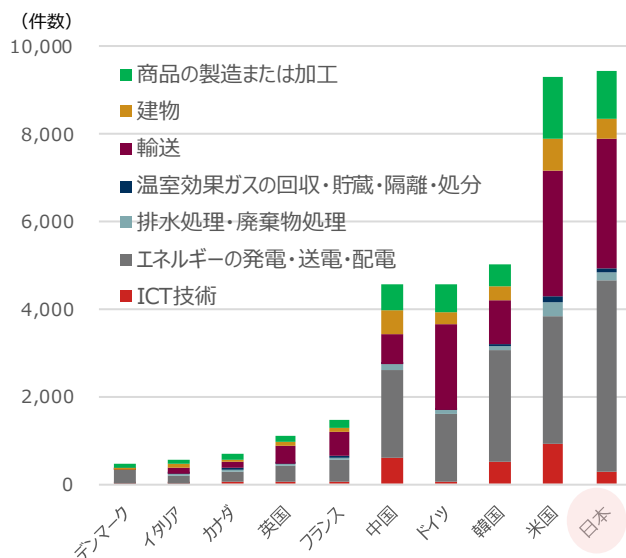
世界的に地球温暖化に対する懸念が強まっており、ここ最近では脱炭素の流れがグローバル規模で加速しています。日本でも「脱炭素」というキーワードを聞かない日はないほどです。世界的な潮流となっている脱炭素は日本株にとって成長の起爆剤となるのでしょうか。主要国の気候変動緩和技術の特許件数をみると、日本は世界1位となっており、脱炭素のビジネス需要を取り込める可能性が高く、日本株は脱炭素分野で優位性を持っているといえます。

ポイント② 投資信託を通じて脱炭素に投資

米国株に対する日本株のパフォーマンスの低さを背景に、投資家の中では日本株投資を敬遠する向きも一部であります。日米株価動向を比較すると、確かにTOPIX（東証株価指数）は米S&P500と比べて上昇率が見劣りする結果となっています。しかし、TOPIXを時価総額や流動性で区分した同ニューインデックスシリーズをみると、主力株30社で構成するCore30の低迷がTOPIXの足かせとなっている半面、その他の指数はいずれもTOPIXを上回る動きとなっています。とりわけ、東証1部全体の8割近い銘柄で構成されるSmallは、2001年以降、2018年ごろまではS&P500を上回ってきました。

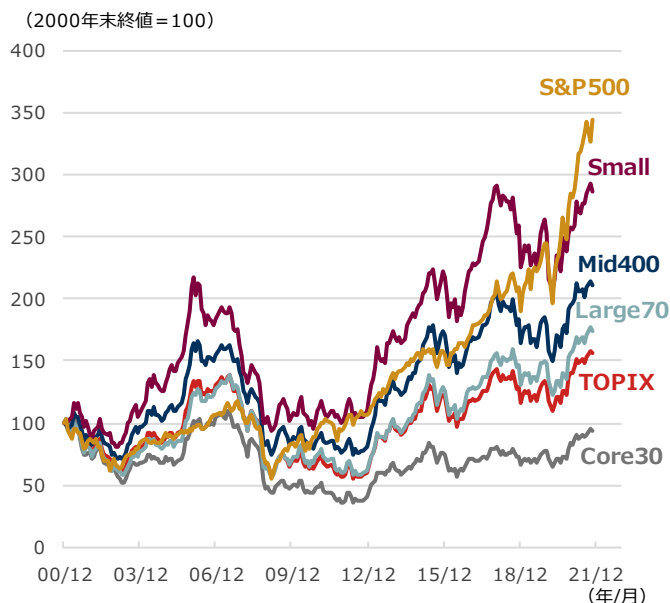
中小型株は会社の規模が小さく、コア事業に集中している企業や、意思決定スピードが速い企業が多いとみられることが利益拡大・株高につながっていると考えられます。もっとも、大型株と比べ、情報量が少ない中小型の個別株を発掘して投資するのはリスクを伴うので、「投資信託」などを活用し、分散効果を享受しながら「脱炭素」という成長テーマを有する企業に投資するのも一手と考えます。

主要国の気候変動緩和技術の特許件数



期間：2015年～2017年、平均値
(出所) 経済産業省「通商白書2021」(<https://www.meti.go.jp/>)を基に
野村アセットマネジメント作成

TOPIXニューインデックスシリーズとS&P500



期間：2000年12月末～2021年10月22日、月次
・Core30：TOPIX Core30、Large70：TOPIX Large70、
Mid400：TOPIX Mid400、Small：TOPIX Small
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。